

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和4年3月30日

事業所名 ハートピア出雲スマイル

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8名	1名	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に玩具や物品等確認し、利用児に合わせた物の準備や安全に考慮した配置を考え実行している。 部屋数は少ないため、アコーディオンカーテンや仕切りなどで部屋を区切り、個室の空間等を作っている。 OT, STの訓練スペースは有り、光ルーム等の活動や、静かに過ごすスペースもある。 	<ul style="list-style-type: none"> 体調不良や安静を必要とする時のスペース確保が、活動児との共有スペースの場合もあり、落ち着けない事もある。朝礼でその日の人数や活動、体調などに合わせた安全な環境を確認し、一日の中でも児の発達や活動に合ったスペースと利用数の再調整を行う。
	2	職員の配置数は適切である	6名	3名	<ul style="list-style-type: none"> コロナ感染予防対策として自粛が加わると、現場の安全な配置数が確保できていないと感じる。 事務仕事の為に現場を離れる必要もあり、実際の療育の職員配置数はスマイル職員のみでは回っていない。ボランティアスタッフや他部署にお願いしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 安全と、療育内容の充実のためには、実際現場に入る職員の配置数は足りず、感染症の消毒等にも人員が必要なため、引き続きボランティアに依頼をする。 児に対する職員配置数なので、事務業務や保護者・外部対応に対する職員数の配置が足りず、職員の補充検討は必要である。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	9名	0名	<ul style="list-style-type: none"> わかりやすく構造化されている。時間や必要な場面に応じて部屋を区切ったり、広く使用したり使い分けている。 換気や消毒・清掃は声掛けをしたり、分かれて行っている。気付いたことは職員間で共有し、より良くなるよう話し合っている。 写真カードで片付けの場などを提示し、分かりやすくしている。 	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	9名	0名	<ul style="list-style-type: none"> 日々、消毒・換気を行い清潔な空間を保っている。 児童の降所後に消毒をしたり環境整備をしたりしている。 	
	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	8名	0名	<ul style="list-style-type: none"> 月1回の支援会議や日々の振り返り等に関係職員がほぼ参加し、問題点をあげたり、それについて改善点等を話しあっている。 	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	9名	0名	<ul style="list-style-type: none"> 昨年の評価結果だけでなく、日々の送迎の際にも保護者と会話し、意向等を把握できるようにしている。また、意向を受けて職員間で話し合い改善に努めている。 	

業務改善	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	9名	0名	・年に一度評価を行い、結果をホームページに掲載するとともに、保護者にも改善内容も含んだ結果表を配布している。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4名	4名		・現在は評価機関による第三者による評価は実施していない。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	9名	0名	・コロナ禍で研修の機会はへっているが、リモート研修など参加できるものは参加している。また、研修内容は報告書を回覧したり、内部研修で共有したりしている。	・引き続き、参加できる研修に積極的に参加し、職員間でも共有するとともに、日々の業務に活かしていく。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	9名	0名		・コロナ禍でアセスメントを対面することが難しい時には、アセスメント票を郵送し保護者に記入してもらう。その後、受け取ったアセスメント票をもとに電話や短時間での対面で聞き取りをしていく。また、必要に応じて保護者の同意のもと、相談員や関係機関等に利用児の情報を得ていく。
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6名	3名	・必要に応じて発達検査などを行っているが、全ての利用児にはしていない。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	9名	0名	・全ての利用児の個別支援計画書に必要な各項目を記載している。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	9名	0名	・個別支援計画をもとに、利用児の実態や体調に合わせた支援をしている。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	9名	0名	・季節の活動では、色んな職種の視点から利用児の発達に合わせた活動内容を話し合っている。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	9名	0名	・季節に合わせた活動が取り入れられている。また、固定化を避けるために、過去の活動を参考にして新しい案へ繋げている。 ・日々のサーキットでも、発達や季節に合ったものを工夫している。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	9名	0名		
17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	9名	0名	・毎日朝礼をし内容を記録している。朝礼に参加していない職員は記録を読んだり、直接口頭でも確認をしている。		

	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	9名	0名	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでは職員間で個別に利用児の様子等を共有していたが、全体での終礼を毎日行うようになった。それにより、利用児の様子や様々な検討事項についてリアルタイムで共有できPDCAサイクルに繋がっている。 ・終礼に参加できない職員にも分かるように記録を残している。 	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	9名	0名	<ul style="list-style-type: none"> ・日々記録をとり、終礼で検証している。また、担当児以外でも気づいたことや変化などを記録している。 	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	9名	0名	<ul style="list-style-type: none"> ・半年に1回、複数で個別支援計画・モニタリングについての作成会議をしてよりよい支援内容へ繋げている。 	
	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	9名	0名	<ul style="list-style-type: none"> ・児童発達支援管理責任者と共に担当職員が会議に参加している。 	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	9名	0名	<ul style="list-style-type: none"> ・児童発達支援への紹介時や入園時に保健師と関わったり、ケース会議等で情報共有をして連携を図っている。 ・関係機関からの情報提供書や電話連絡・連携ノート等で情報共有をしている。 	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	9名	0名	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて支援ファイルや関係機関等と電話連絡をして情報共有や相談をしている。 	
関係機関や保護者との	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	8名	1名	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて各機関と連絡をしている。 ・看護師がスマイル専属で配置されたことにより、看護師が中心となってチーム体制が整ってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関の地域連携室、相談員、訪問看護、訪問リハ等他事業所との連携を専属看護師が行うことで、より充実させていく。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	9名	0名	<ul style="list-style-type: none"> ・就園先へのサポートブックの作成や情報提供書を作成し、会議等で細やかな申し送りを行っている。 	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	9名	0名	<ul style="list-style-type: none"> ・就学先へのサポートブックの作成や情報提供書を作成し、会議等で細やかな申し送りを行っている。 	

連携	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6名	3名	・ケース会などで連携し、助言を受けたり、情報共有をしたりしている。 ・研修はコロナ禍という状況もあり、研修参加の機会が少ない。	・ケース会などで連携はしているが、具体的な支援内容について詳しく知りたい。 →ケース会等での情報共有時に、あらかじめ質問内容に入れたり、ケース会以外での情報共有の場を設ける。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0名	9名	・コロナ禍もあり、スマイルの取り組みとしては、他園の子どもとの交流の機会は設けていない。	・保育所に通っている子どもも多く、企画する必要があるのかどうか。 →保護者のニーズを聞きながら、必要に応じて検討していく。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	4名	5名	・児童発達支援管理責任者が参加しているものもあるが、コロナ禍ということもあり参加が難しいが続いている。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	9名	0名	・連絡ノートや送迎時の会話、年に2回の個別懇談の他、必要に応じて面談の機会を設けている。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	5名	3名	・コロナ禍ということで実施が難しい部分もあるが、タイミングを見ながら実施している。 ・必要に応じて個々に家族支援プログラムの支援を行っている。	
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	9名	0名		
保護者への説明責任等	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	9名	0名		
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	9名	0名	・送迎時に話せる時間を大切にし、相談に応じている。その他、状況に合わせて時間の確保や、助言、支援を行っている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1名	8名	・現在、コロナ禍の為、開催は中止している。 ・コロナ禍で思うように動けない部分もあるが、保護者主催の会(温会)で保護者同士が交流できるように情報提供をしている。	・コロナ禍の状況や保護者のニーズを踏まえた上で、可能な限り場の提供を検討する。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	9名	0名	・職員間で周知し、対応するようにしている。	

	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	9名	0名	<ul style="list-style-type: none"> ・日々活動の様子は、連絡ノートに写真を貼って知らせている。 ・スマイル便り、ほけん便り等を配布している。 	・行事予定は事前に発信していないため、今後掲示板やお便りで知らせていく。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	9名	0名		
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	9名	0名	・視覚支援の為にカードやスケジュールを使用している。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2名	7名		・以前は行っていたが、現在はコロナ禍のためできていない。 →今後はコロナの状況を見ながら、地域交流の機会を探っていく。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	9名	0名	・マニュアルをもとに訓練し、振り返りをしながら職員間で改善点を考え次に繋げている。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	9名	0名	・定期的に訓練を行っている。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	9名	0名		
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	9名	0名	・どの職員でも対応できるように、アレルギーについての個別カードを作成し、食事やおやつの際に確認している。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	9名	0名		
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	9名	0名	・研修した内容を発表する機会を設ける等して周知している。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	9名	0名		